日本語習熟論学会第1回大会(2022)研究発表予稿集　2022.7.30

学習者の語・表現の産出に焦点を当てた日本語教育研究

－日本語教育における「語彙の教育と習熟」について－

鈴木 智美（東京外国語大学）

キーワード：文型，多義，コロケーション，類義表現，例文，学習ツール，文章展開

1. はじめに

本稿では，執筆者がこれまで日本語教育の現場に身をおきつつ，日本語の様々な表現の意味・用法について考察を行ってきた経験の観点から，日本語学習者の語・表現の産出に焦点を当てた日本語教育研究の種々のありようについて述べることを目的とする。日本語教育の現場において種々の表現を取り扱うにあたって留意していることを中心に述べる。

2. 語・表現の産出にあたり日本語教育の観点から注意すべき各点について

2.1 文型：述語とその補語など

日本語教育の観点から学習者の産出する語・表現について考える際，まず押さえるべき基本的な点として，その語・表現がどのような「文型」において用いられるのかということが挙げられる。日本語教育において「文型」とは，いわば文の構造パターンとでも言うべきもので，多くの初級教科書においては，伝統的に「文型」に基づくシラバスにより教授項目が提示されてきた(1)。語は単独で用いられるのではなく，文を構成する要素としてはたらく。したがって，語を学ぶ際には，それが文の中ではどのような他要素とともに，どのように用いられるのかという基本的な点についておさえておく必要がある。文のいわば骨格とも言うべき基本構造を的確に身につけておくことは，中級以上のレベルになりより複雑な内容の文を産出する際においても，構造の明快さを実現する上で重要である(2)。

例えば，日本語教育の初級～初中級段階では多くの基本的な動詞・形容詞等が導入されるが，これらの語がどのような補語（「名詞＋格助詞」の形をとり，述語が表す意味を補う要素）をともなって用いられるのかは，「[交通手段] で [場所] へ行く」「[時刻] に始まる／終わる」「～は [場所] にいる／ある」「[場所] に～が [数量] いる／ある」「[場所] で～を（する・読む・買う・食べる）」「～がほしい／好きだ」「～と同じだ／違う」「～に～をあげる／～に・から～をもらう」などのようにそれを明示的にとらえることができる。中級段階以降になり，導入される語・表現が多岐にわたっても同様に，「～に驚く」「～にあふれる」「～に属する」「～に困る」「～から～を守る」等，必要となる助詞に注意を払い，文構造をおさえていくことは語・表現の導入の際に欠かせないポイントとなる。

2.2 多義的意味による結びつく語・表現の違い

語・表現はその多義的な意味により異なる「文型」をとる場合があるという点に注意が必要である。例えば，初級段階で導入される基本的な動詞「聞く」の場合，「耳で感じてとらえる」の意ならば，「[話・音楽] を聞く」という構造をとり，「人を通して知る」という意ならば「[人] から [知らせ・ニュース] を聞く」のように情報源を「から」で示すことができる。「尋ねる」の意ならば「[人] に [道・時間・値段] を聞く」というように，問いかける相手が「に」によって示される。また，「呼ぶ」という動詞の場合も，単純に「名前を声に出して言う」意味ならば「[名前] を呼ぶ」となるが，相手にどのように呼びかけるかということならば「[相手] を [名前・ニックネーム] で呼ぶ」，相手を招く意ならば「[人] を [イベント等] に呼ぶ」，また名付けを行うという意味ならば「[人・物・時・所] を [名前] と呼ぶ」と，それぞれ異なる文型をとる。

また，構造パターンとしての「文型」に違いは見られなくとも，具体的にどのような語・表現を補語の名詞句にとることが可能なのかという点に目を向ければ，語の多義的な意味によってそこに現れる表現が異なってくる。例えば，初級段階で導入される基本的な動詞「見る」「買う」などを例にとると，以下のようにどのような語・表現をヲ格の名詞句としてとり得るのかは，基本的な意味から派生的な意味まで，その多義的意味により異なってくる。

(1) [テレビ・映画・ニュース] を見る　(視覚でとらえ理解する)
[顔色・様子・反応] を見る　(状況を探る)
[意見の一致・解決・終結] を見る　(新たな状況・局面を迎える)
[子どもの勉強・面倒・赤ちゃん] をみる　(世話をする)
[患者・患部・病状] を診る　(診察する)

(2) [野菜・服・車・株・土地] を買う　(お金を払って品物や権利を自分のものにする)
[反感・反発・ひんしゅく・恨み] を買う　(よくない評判や反応を身に受ける)
[才能・努力・意欲・人柄] を買う　(その価値を認める)
[喧嘩・憎まれ役・大役] を買う／買って出る　(進んで引き受ける)

このような多義性に基づく様々な用法は，語の広範な使い方を習得する上で欠かすことにできない観点となる。例えば「とる」や「かける」など多義の発達した基本的な動詞については，初級から中級，そして上級レベルに進むにしたがって，以下に挙げたような様々な使い方に触れ，それを身につけていくことになる。

(3)「とる」:
「棚から荷物をとる」「写真をとる」「皿に料理をとる」「帽子・めがねをとる」
「服の汚れをとる」「(かかってきた) 電話をとる」「週に６つ授業をとる」
「手数料を 10%とる」「ノートをとる」「朝食をとる」「先に行って席をとっておく」

「専門的な資格をとる」「失礼な態度をとる」「万全の対策をとる」
「責任をとって辞職する」「冗談を本気にとる」「先方に連絡をとる」
「イニシアティブをとる」「相手の機嫌をとる」「競争相手に遅れをとる」　など

(4)「かける」:
「壁に絵をかける」「ドアに鍵をかける」「本にカバーをかける」
「料理にソースをかける」「めがねをかけてよく見る」「電話をかける」
「荷物に紐をかける」「椅子に腰をかける」「相手に迷惑をかける」
「皆に心配をかける」「一言声をかけて行く」「時間をかけて考える」
「外交的な圧力をかける」「拍車をかける」「保険をかける」「成功に期待をかける」
など

2.3 コロケーション

上記のような様々な用法に目を向けることは，さらに，語と語が慣習的にどのように結びつくかという「コロケーション」（連語）に注意を払うことにつながる。例えば，日本語においては「風邪を引く」「電話をかける」「約束を破る」「うそをつく」などの表現は，動詞と名詞句とが慣習的に結びつき，定着した表現を形作っており，これを例えば「?風邪をとる」「?電話を送る」「?約束を壊す」などと，動詞を自由に置き換えて言うのは不自然である。

同様の慣習的な結びつきは，「計画を立てる」「関係を深める」「影響を与える／受ける」「才能を伸ばす」「目標を達成する」「義務を果たす」「疑問を抱く」「発展を遂げる」「問題が生じる」「期待が高まる」「足跡をたどる」「変化に富む」「実現を危ぶむ」「希望をもたらす」など，日常的に種々の表現において見られる。このような動詞を中心としたコロケーションに限らず，「真っ赤な嘘」「暗黙の了解」「きっぱり断る」「はっきり言う」など，修飾要素と被修飾要素の関係においても，慣習的に定着した語と語の結びつきは見られる。中級レベル以降，種々の表現に触れ，豊かな語彙力を身につけていくためには，このような慣習的な語と語の結びつきに習熟することが欠かせない。

2.4 類義表現との意味の違い

また，互いに似た意味を持つ「類義」関係の語においては，上記のように慣習的に結びつく語（コロケーション）に違いが見られることも多いため，語と語の結びつきに注意を払うことは，類義表現の使い分けの観点からも重要である。

(5)「豊かな」「豊富な」:
豊かな｛自然・心・愛情・想像力・才能・表情・人生・生活・暮らし・人間性｝
豊富な｛?自然・?心・愛情・想像力・才能・表情・?人生・?生活・?暮らし・?人間性｝

(6)「発展」「発達」:

{産業・経済・国・町・文化・人々の考え方・社会} が発展する
{交通手段・通信技術・心身・知能・機能} が発達する

3. 的確な例文の提示の必要性

3.1 導入の際に必要となる具体的な文脈を考える

2.1〜2.4 節において述べたように，多義的な意味の観点からある語を中心とした文型（構造パターン）およびコロケーション（意味的な結びつき）をおさえること，また類義表現との違いを視野に入れた意味・用法をとらえること，日本語教育の現場においてこれらを的確に実践していくために必要なのは，それらの要点を簡潔に示すことにできる例文であろう。

しかし，「例文」の働きがより重要になるのは，初級レベルにおいて基本的な語・表現を身につけた後，例えば中級レベル以降に，より抽象的な概念等を表す種々の表現が導入されるようになってからであると思われる。それらの語・表現が実際にどのような文脈・場面で，どのようなことを述べる際に用いられるのかを的確に理解することができるよう，具体的かつ適切な例文の提示が求められるようになる。なお，ここでの「例文」とは，提示すべき内容をおさえた上で，構文的および意味的側面から整えられ作成された文のことであり，コーパス等で得られた実例をそのまま学習者に示すというものではない。

一例を挙げれば，例えば「矛盾」しているとは，例えばどのようなことがどうあることを述べるものだろうか。あるいは「妥当」「合理的」「短絡的」などの表現は，具体的に何がどのようである場合に用いるものなのだろうか。いずれの表現も辞書の記述を見れば，「矛盾」とは「つじつまが合わないこと，両立しないこと，話の前後が合わないこと」，「妥当」とは「判断・処置が理にかなっており適切であること」，「合理的」とは「理にかなっていること」あるいは「無駄がなく能率的であること」，「短絡的」というのは「筋道によらず 2 つの事柄を単純に直接結びつけてしまうこと」など，一定の説明を得ることはできる。しかし，それらの表現が具体的に使用されるのはどういう場合なのかということまでは，辞書の記述のみからはわからない。ウェブ上で，あるいはコーパスを用い，これらの表現を検索したとしても，学習者が理解するのに適当な，うまく整った文脈が即座に見つかるとも限らない。学習者の母語において対応する語があれば，対訳により一定の意味の理解は可能であると思われるが，どんな場合にも両言語でその意味や使用範囲が完全に一致するとは限らない。典型的かつ具体的な使用文脈を示すためには，学習している目標言語の言語社会における的確な使用例を，整った例文として提示することが必要になる。

ケーススタディとして，中級〜中上級レベルにおいて例えば「良心的」「うがった〜」という表現が扱われる場合，「良心的」とは何がどうあることなのか，「うがった {見方／解釈}」とは，どのようなことをどう解釈することなのかということを示す例文について考えてみた例を挙げる（鈴木 2016a, 鈴木 2020）。

(7)「良心」：人間の一般的な道徳的意識

「良心的」：通常であれば利益至上主義にしたがい，当然のごとく利益優先として行動すると思われるところで，思いのほか顧客の立場に立った，利益はひとまず置いて，顧客を重視・尊重するような対応をとっていると思われる事例

(8)「良心的」の導入例試案（鈴木 2016a より）

(11)「良心的」の具体的な使用状況・場面例（その1）：
町の露天商で購入したアクセサリー（の金具）がすぐに壊れた。領収書（店がお金を受け取ったしるしに、日にちや金額を書いた紙）は、もちろんもらっていない。しかし、翌日持って行ったら新しいのに交換してくれた。意外と良心的な商売をしているんだと思った。

(12)「良心的」の具体的な使用状況・場面例（その2）：
顔かたちを美しくしたいと、美容整形手術を受ける女性が日本でも増えてきているそうだ。手術代は決して安くなく、美容整形外科医というのは、いい商売だ。お金をもうけたい医師は、1つ手術が終わっても、すぐその後に、ほかの手術もやったほうがもっときれいになりますよと次の手術をお客に勧める。そんな中で、A医師は、手術をしたいという女性が相談に来た時、その手術1回では、その人の希望する（理想の）顔にはなれないだろうと思う場合、もっと高いほかの手術もやるようにと次々に勧めるのではなく、まず、相談者には、手術をするのかどうかもう一度よく考えるように話しているという。お金もうけばかり考える医師が多い中、これは医師としてかなり良心的な態度ではないだろうか。

(9)「うがった見方／解釈」：ある物事が，表面上は多数の人に肯定的あるいは好意的に受け止められている，あるいは特に問題があるとは思われていないという状況で，それに対し，その本質的な裏の事情をとらえるような見方を提示し，発言を行うという文脈。「物事の隠れた本質をうまくとらえている」と評価される場合もあり，「裏の事情を深読みし過ぎている」と受け止められる場合もある。

(10)「うがった～」の導入例試案（鈴木 2020 より）

(9) 4年に1度のオリンピックが私たちの町で開催されることになった。町中お祭り騒ぎで、試合を見るためのチケットを買うのも、競争が激しく、大変だ。申し込んだが1枚も買うことができなかったという人たちのために、もう一度申込みのチャンスが与えられることになった。だが、そこで売られるのは、どうも人気のない競技のチケットばかりらしい。うがった見方をすれば、試合をこの目で見たいという人たちのためにチャンスをもう一度作っているように見せて、実は、売れ残ったチケットを早く売ってしまおうということなのだ。

(10) 日本人とアメリカ人の両親を持つあるスポーツ選手は、日本で生活した経験がほとんどなく、日本語を話すこともほとんどできないが、日本の代表として試合に出ることを選んでいる。多くの日本人は、この選手が日本を選んだことをうれしく思っているが、一方、アメリカではほかに強い選手がたくさんいるから、代表になるのは大変だし、日本を選ぶと、日本企業がスポンサーになって援助をしてくれたりするので、選手として活動するのに都合がいいからだろうと言う人もいる。これは少々うがち過ぎの解釈ではないだろうか。その選手がまだ弱く、試合に勝てなかった頃から、日本のコーチだけはその才能を評価して育ててくれたらしい。だから、その選手は日本が心のふるさとなのだということだ。

3.2 学習者の学習ツールの使用実態とコンテンツ開発に資するデータベースの作成

日本語学習者にとってこのように「例文」が大事であるということは，特に辞書の開発・作成の文脈において以前より指摘されてきた。例えば姫野（監修）（2004），姫野（監修・執筆）（2012）等は，学習者あるいは日本語教師にとって役に立つよう，語と語の慣習的な結びつき（コロケーション）に焦点を当て，豊富な例文によってそのありようを示した特色ある辞書となっている。

一方，学習者と辞書との関係を見てみると，ここ 10 数年の間に，その様相は大きく変化している。鈴木（2012）では，日本語学習者（留学生）を対象に 2011 年 1〜2 月時点で調査を行った結果，電子辞書（辞書専用器）の使用者が多数派を占めており，同時にオンライン辞書（辞書サイト）の使用が広がり始めていると見られることが報告されている。この時，スマートフォンはまだ出始めた頃であり，スマートフォンを所持し，各種アプリを学習に使用しているという学習者は少数派であった。

学習者が日本語を産出する際にどのように辞書を使用しているのかについては，鈴木（2016b）等により調査が継続して行われ，辞書使用の際のポイントを学習者と共有すること等を目指したワークショップも開かれている（鈴木・髙野 2015，鈴木 2017）。その後，スマートフォンの使用が一気に増え，学習者の多くがそれを所有するようになると，同時に日本語学習に資する様々なアプリやウェブサイトも開発されるようになり，鈴木他（2018, 2019, 2020）では，2016〜2018 年の調査時において国内外の学習者の学習ツール使用状況は一転し，電子辞書の使用は稀となり，スマートフォンの各種アプリ，および各種ウェブサイトが活発に使用されるようになっていることが報告されている。

このような状況の中で，鈴木他（2020）では，実際に学習者に人気のある辞書アプリ 4 種の語句検索方法・検索結果，収録の訳語や例文等の検討を行い，言語学習のための修正・加工等が施されない膨大な量の例文が無作為に表示されることや，文脈等の情報がないまま似た意味を持つ複数の対訳候補が提示されるなど，アプリの例文および対訳に見られる問題点を指摘している。また各アプリにおいて表示される例文がどのようなデータベースに基づくものであるかを確認し，複数のアプリが依拠する例文データベースが，必ずしも日本語教育の観点からの精査を経たものではないと考えられることを述べている。

また，鈴木他（2019）では，日本語学習アプリ・ウェブサイト開発に見られる特徴を「オープンデータ」「双方向のコミュニケーション」というキー概念によってとらえ，アプリ・ウェブサイト開発において欠かせないのは，開発に利用可能な種々のオープンデータであること，またユーザーは開発・管理者に向けて質問やコメントなどのフィードバックを寄せ，自らコンテンツの改善を図ることも可能であるなど，学習ツールの開発には旧来の「辞書」とはその基本の考え方において異なる特徴が見られることを指摘している。

これらの調査研究を経て，鈴木他（2022）では，日本語教育に資する，質を整えた例文のデータベース（例文バンク）を作成し，アプリやウェブサイトなどの日本語学習ツール開発に利用可能なようにオープンデータとしてそれを公開することとして，4 年間の研究

プロジェクトを開始したことが述べられ，当該の例文データベースのコンセプトと具体的な例文作成の考え方について説明がなされている。

4. 論理的な文章展開：語・表現を超えたもの

最後に，日本語学習者のみならず日本語母語話者も含め，アカデミックな文脈で学術的なレポート・論文の作成を行う際，産出する個々の文が全体の「文章の展開」に影響を与えるため注意が必要であるという点を指摘しておきたい。

読みやすい文章，論の流れが明快な文章というのは，読み手の思考への妨げがない。書き手が何を言おうとしているのか，どういう論の流れがそこにあるのかについて理解困難であるということがない。それは決して「易しい」文章であるということと同義ではなく，内容自体が学術的に難しいテーマを扱っていたとしても，論の展開に不自然さがないということによってもたらされる明快さである。これには，文と文とのつながりもさることながら，個々の文において，文章の展開に沿わない文構造が用いられていないということも大きいと考えられる。「〜はAであり，一方，〜はBである。」と述べることと，「〜がBである以外は，すべてAである。」と述べることでは，互いに文構造が異なることから，当然，そのような文がそれぞれに述べようとしていることは異なる。いずれを用いるかによって，その後の文章展開は変わってくる。このことは，2.1節で触れた「文型」が，文の構造と表現機能とをあわせて持ったものであることを，今一度よくとらえ直すことにもつながると思われる。

5. おわりに

ここでは，日本語教育における語彙の習熟およびその教育について，現場の教師の観点から考えられる留意点を，文型（文構造と表現意図），コロケーション（慣習的な語と語の結びつき），多義性，類義表現の各点から示した。さらに抽象的な概念を表す語・表現については，それが実際にどのような文脈において用いられるのかを，的確な例文によって提示する必要性について述べ，近年の日本語学習者の辞書等のツール使用の変化を確認するとともに，現状において学習者の使用するアプリやウェブサイト等の例文には問題点も見られること，さらにその問題点を解決すべく，日本語教育の観点から内容・質を整えた例文のデータベースを作成し，オープンデータとしてそれを公開する研究プロジェクトが既に開始されていることについて述べた。また，最後に「文」レベルの的確な産出が，論理的な文章展開において欠かせない一要素となると考えられることについて触れた。

日本語学習者の語彙および日本語の習熟に役立つことができるよう，今後とも日々の教育・研究を進めていきたいと考えている。

注

(1) 日本語教育のシラバスには，言語使用の「場面」や「話題」（トピック）を中心として組まれたものや，「タスク」（課題）を行うことを中心に据えたものもある。なお，日本語教育にお

いて伝統的にとられてきた「文型」の概念は，形式と意味との両側面をとらえるもので，後の「オーディオ・リンガル・メソッド」における「パターン・プラクティス」（機械的な反応を形成するよう口頭にて徹底的に行われる代入練習や変換練習など。「“文型”練習」という訳語が充てられる）とは本来的には意味するところが異なる（鈴木 2019）。

(2) なお，日本語教育における「文型」には，例えば「比較」を表す「（A と B とでは）A のほうが～」という文型や，「Verb（動詞）たことがある／ない」という「経験」の有無について述べる文型など，表現の側面に着目したものも含まれる。

参考文献

鈴木智美（2012）「留学生の辞書使用についての実態調査―東京外国語大学で学ぶ留学生へのアンケート調査の結果と分析―」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』第 38 号 pp. 1-16

鈴木智美（2016a）「抽象概念語彙を説明するための適切な導入例を考えるー現場教師の授業準備に役立つための試案作成に向けて」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』第 42 号　pp. 97-110

鈴木智美（2016b）「日本語学習者は辞書からどのように言葉を探すのかー中級・中上級日本語学習者 7 名の辞書使用についての調査報告事例からー」東京外国語大学国際日本研究センター『日本語・日本学研究』第 6 号　pp. 1-23

鈴木智美（2017）「2016 年度夏学期『辞書を使おう』ワークショップ実践報告ー初中級～中級レベルの日本語学習者の辞書ツール使用を考えるためにー」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』第 43 号　pp. 177-190

鈴木智美（2019）「日本語教育における『文型』再考」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』第 45 号　pp. 123-132

鈴木智美（2020）「抽象概念を表す表現の導入例を考える-『うがった』見方／解釈とは-」『東京外国語大学国際日本学研究』プレ創刊号　pp. 179-185

鈴木智美・清水由貴子・渋谷博子・中村彰・藤村知子（2018）「予備教育課程の国費学部留学生の学習ツール使用状況－2016～2017 年度実施のアンケート調査の結果から見えるスマートフォンアプリの使用目的の多様化と学習スタイルの変化－」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』第 44 号　pp. 195-217

鈴木智美・清水由貴子・渋谷博子・中村彰・藤村知子（2019）「東京外国語大学全学日本語プログラムで学ぶ留学生の学習ツール使用状況―2016～2017 年度実施のアンケート調査の結果と分析」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』第 45 号　pp. 221-238

鈴木智美・清水由貴子・中村彰・渋谷博子（2020）「海外の大学における日本語学習者のツール使用状況の解明-ICT 時代における教師の教育設計リテラシーの向上を目指して-」東京外国語大学国際日本研究センター『日本語・日本学研究』第 10 号　pp. 23-48

鈴木智美・清水由貴子・中村彰・加藤恵梨（2022）「日本語例文バンク科研（Jreibun）第 1 回公開研究会報告-日本語学習ツールに使用可能な良質な例文をオープンデータで公開する-」『東京外国語大学国際日本学研究』第 2 号　pp. 191-208

鈴木智美・髙野愛子（2015）「中上級日本語学習者の辞書使用－作文時の辞書使用の詳細調査と文章表現のための辞書使用スキルアップを目指すワークショップ実践報告－」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』第 41 号　pp. 137-156

姫野昌子（監修・執筆）（2004）『日本語表現活用辞典』研究社

姫野昌子（監修）／柏崎雅世・藤村知子・鈴木智美（編集）（2012）『日本語コロケーション辞典』研究社